

研究授業指導案参考様式（R7）

*平成30年告示の学習指導要領を参考に「目標」「評価規準」「評価の観点」を記載すること

〇〇科研究授業学習指導案

学 校 名 _____
指導者 職・氏名 _____

指導日時・教室 令和____年____月____日（__）__限目 教室名 _____
対象生徒・集団 ____科____年（次）生____人（内訳 H ____人）（*習熟度基礎・応用等を書く。）
科 目 名 _____（単位数 _____）
使用教科書 _____（出版社名 _____）

1 本校において当該教科で身に付ける資質・能力

*以下の項目は、ここで記載した内容に合わせて記述する。

2 単元（題材）名 _____

学習指導要領に示された教科の目標、内容をもとに、あるまとまりをもった教育内容の単位の名称を記述する。

3 単元（題材）の目標

単元（題材）全体を通しての目標を、本校の当該教科の目標及び学習指導要領に基づいて具体的に記述する。
以下の三つの柱のすべての目標を示すこと。

- (1)「知識及び技能」の目標
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標

*書きぶりは各教科の国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参考にして書く。

4 単元（題材）の指導に当たって

(1) 生徒の状況

単元（題材）の目標に関連して、既習事項の理解度や習熟度、教材についての興味・関心の程度、学習集団の特徴等を具体的に記述する。

*生徒の状況を示す数値等のデータがあれば、できる限り活用する。

(2) 教材観・教材選定の理由

取り上げる教材の概要や特徴、教材の系統性、単元（題材）の目標を実現するに当たっての必要性を記述する。

*生徒にとっての教材の価値、生徒の学習履歴との関連、他教科との関連等についてもできるだけ触れる。

(3) 指導方針・方法

(1)の生徒が(2)の教材を用いて、単元（題材）の目標に最も効果的に到達できる学習方法を考え、そのために必要な指導方法や指導方針、重点事項等を記述する。

*単元の目標に迫るための手立て（指導上の仮説）を立て、指導形態や配慮事項などを記述する。

*これまでの指導経過・指導実績を踏まえ、単元（題材）の系統性を押さえて記述する。

5 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 各教科】（国立教育政策研究所教育課程センター）を参考にする。		

*職業に関する教科については、「知識・技能」は「知識・技術」とする。

6 単元（題材）の指導と評価の計画（総時数_____時間）

※研究授業、公開授業の「本時」は評価の場面のあるものとする。

◎を記録に残す評価として残す

●を記録に残さないが、指導の改善に生かす評価として記す

< 基本様式1（国語を除く教科） >

時	ねらい・主な学習活動	知 技	思 判 表	態 度	評価の方法等
1	例) ～を理解する。	●			ノート
2	～を考える。		●		ワークシート
3	～をまとめ、発表する。		◎		観察
4					
⋮	単元の最終評価として「パフォーマンステスト」などを位置付けている場合は、時に「後日、ねらい・学習活動に「パフォーマンステスト」などを記入しても良い。				本時に該当する部分は太線で囲み、位置づけを明確にする。

単元（題材）全体の指導計画がわかるよう、学習内容及び主な学習活動を明示する。

題材について記載する場合は、単元全体の構成についても意識した上で記載すること。

外国語の場合は、「主な学習活動」は「主な言語活動」とする。

◎を記録に残す評価として残す

< 基本様式2（国語） >

次 (時数)	主な学習活動 (中心発問)	知 技	思 判 表	態 度	評価の方法等
一 ()	例) ○～について見通しをもつ。 ○～について考え、ワークシートにまとめる。	◎			ワークシート
二 ()	○～をICT端末で記録する。 ○～を発表する。		◎		観察
三 ()					
⋮	本時に該当する部分は太線で囲み位置づけを明確にする。				

単元（題材）全体の指導計画がわかるよう、学習内容及び主な学習活動と配当時間を明示する。

題材について記載する場合は、単元全体の構成についても意識した上で記載すること。

7 本時の指導と評価の計画（第__時）または（第○次○時）

（1）本時のねらい

単元（題材）の目標を踏まえて、生徒が何を学び、どのような資質・能力を身に付けるのかを明らかにし、生徒の視点に立って具体的に記述する。

* 生徒が身に付ける資質・能力を、1～2つ箇条書きで記述する。

（2）準備・資料等

（3）本時の展開

時間	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評 価 規 準 【観点】（評価方法）
時間配分を書く	○学習活動のまとめり毎に、その学習内容が分かるように簡潔に書く。 * 導入・展開・まとめ等の順に書く。	○生徒が何を目標に、どんな学習活動をするのかを具体的に書く。 * 学習集団内の理解度、習熟度の差にも留意する。	○学習活動と教師の指導とのかかわりを具体的に書く。 ・ 生徒への説明方法、発問の仕方 ・ 資料提示の機会や方法 ・ 学習方法や学習形態の工夫点 ・ 主体的な学習への支援 等	○評価の観点を踏まえ、評価規準（概ね満足できる状況）を具体的に書く。 * 本時のねらいと一体となった評価規準とする。 【評価規準・観点の例】 ・ ～を考察し、導き出した考えを表現している。 【思考・判断・表現】 ・ ～について理解している。【知識・技能】 【評価方法例】 ・ 観察（行動、発言、発表等） ・ ノート ・ ワークシート ・ レポート ・ 作品（図表、新聞等） ・ テスト ・ パフォーマンステスト 等 * 本時の主要な評価規準を示す。（通常、1単位時間あたり、1～2個の設定が望ましい。）
		○ねらいに対応した主発問や評価の場面をわかりやすく示す。 * 主発問や評価の場面を枠で囲むなどの工夫をする。	○予想される生徒の反応や状況とそれに応じた指導の具体的な手だてを書く。（概ね満足できる状況に至らない生徒への手だてを書く。） * T T の授業の場合、T 1・T 2とし、それぞれの指導について具体的に書く。	

（注）「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 各教科】」（国立教育政策研究所教育課程センター）を参考に作成する。